

ツーソン 2023 のクイック・レポート

古屋 正貴 氏 (JGS 監事 / 日独宝石研究所 所長)

1) 今年のツーソン・ジェム・ショー

2021 年には多くの展示会が新型コロナの影響で中止されたツーソンの展示会も、今年は世界的に新型コロナも落ち着いたことから、多くの国から参加がありました。特に日本からは制限なく渡航できるようになったことから、3 年ぶりに参加され、活発に仕入れられたという方も多くいらっしゃったようです。しかし、アメリカ、ヨーロッパの方は昨年から参加されていたことや、中国からはまだ例年ほどの参加がなかったこと、また、ウクライナ情勢による世界的な景気の悪化を懸念してか、あまり活発な購買にはつながらなかったようで、展示会自体としてはゆっくりなものだったという話が多く聞かれました。



コロナ前のように活況を呈する展示会の様子 (マスクを付けていたのは私だけ?)

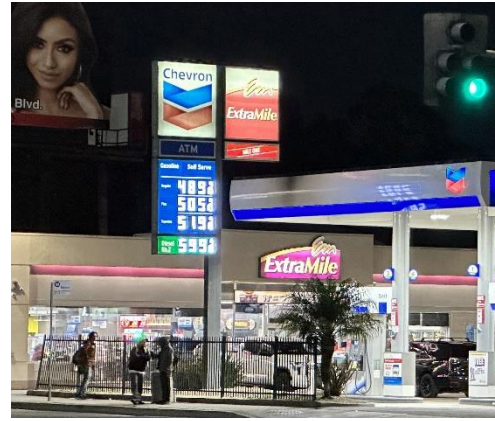
2) 世界的なインフレの影響

今回のツーソンで気になっていたのが宝石の値段でした。特にアメリカでは、ニューヨークでは卵が1パック8ドル超えになっているという話もあったり、ツーソンの展示会の食事が以前は10ドルほどだったものが17-18ドルになっていたりと、宝石の値段にもどのような影響があるのか心配されました。しかし、ドルベースで見ると思いの外変わっていない印象でした。しかし、1点ものとなるような大きな宝石や、産出が止まっているレアストーンでは、2～3割の上昇は当たり前で、5割以上上がっているものも見られました。1点ものとなる大きな、きれいな宝石については「この値段でも売ったら次仕入れられるか、分からないから、売れるのは嬉しいが、あまり売れたら困る気持ちすらある」という声も聞かれました。レアストーンでは、アメリカのベニトアイトやロードクロサイトの値上がりが目立ちました。ベニトアイトは採掘が停止してだいぶたっていること、ロードクロサイトでは昨年、一昨年の産出が芳しくなかったことが影響しているようでした。

また全体的に値段の調整が追いついていない感じを受けました。昔からツーソンでは大元のサプライヤーとそこから買って販売しているディーラーとが共存していて、それらはぱっと見ただけではわかりません。そのため、同じような商品でも値段が大きく変わることがあります。それに輪をかけるように、値段を高く変えた人とまだ昔のままの値段で売っている人とがいて、この値段が入り混じっているのが、一段と強くなっている印象でした。



以前は10ドルだったものが18ドルに GJX の食事



\$4.89/gallon(約 175/L)と高騰するガソリン



値段の調整が間に合わず、数字と値段を示すシールで二重に値段がついた鉱物

3) モザンビークのパライバ・トルマリンとルビー

印象的だったのがモザンビークの宝石の値段です。パライバ・トルマリンについてはブラジルの産出が減っていること、またブラジルでありながら色が薄いものが増えていることから、相対的にモザンビークのもの的重要性が高まっています。モザンビークのものは色が薄い印象もありますが、ほどほどの大きさがあるとしっかりネオンブルーは強くなり、それらではブラジルのものに類する値段で販売されていました。特にモザンビークのものは透明度が高く、輝きが強いことから「ノンオイル」を売りにしているものも見られました。

また、同じようにモザンビークのルビーの値段もだいぶ上がっている印象でした。アメリカでは軍事政権への制裁からミャンマーのものの輸入に制約があることも影響しているのでしょうか、非加熱のルビー1ct～2ctではミャンマーのものとモザンビークのもので、モザンビークの方が高い値段が付けられているものも見られました。特に今ではモザンビークはルビーの主要な産地の一つとなり、ロットとして数が揃うのはモザンビーク産だけのような印象もあります。商品としての企画のしやすさも宝石が少なくなる中では一つ重要な価値なのかもしれません。



ブラジル産なのに色が淡いパライバ



ノンオイルを売りにするモザンビーク産のパライバ

4) 目立った宝石・その名も“ドラゴン・ガーネット”

今年特に目立った宝石がありました。一つはインパクトのある宣伝が行われ、“ドラゴン・ガーネット”という名称で販売されていたガーネットです。このガーネット自体は、パイロープとスペサルティン・ガーネットの混合タイプである“マラヤ・ガーネット”で、赤い蛍光性のあるものをドラゴンの吐く炎の赤に因んで、そのように呼んでいるようです。マラヤ・ガーネットの蛍光自体は弊社 Gem Information Vol.46 でご紹介したとおり、蛍光を抑制する鉄が少ないことで、レアアースによる赤の蛍光が現れるようになっているというのですが、この“ドラゴン・ガーネット”として販売している会社は、その蛍光性を含め、色が変わることを売りにしています。弊社でもサンプルを調べたところ、蛍光が確認され、さらに特殊なライトで色が変わって見えました。このガーネットは、通常のデイライトではピンクなのですが、白熱灯ではブラウニッシュオレンジになります。海外の方はピンクからピーチカラー（黄桃）になると表現される色です。また、少し前の青色が強い白色LEDですと、紫になります。さらにこれは意外でしたが、ジェルネイルのライトでは黄色～オレンジになりました。これらは基本的に石自体の色が淡いことで波長に偏りのある光源を用いると、その強い波長が反映されて見える上に、赤の蛍光があることから、このような特徴が見られるのだと思います。しかし、蛍光性自体は標準的な紫外線ライトで確認できるものですが、変色性については、使われているものが特殊な光源であることから、訴求するには注意が必要かとも思います。



“ドラゴン・ガーネット”の変色？ (いろいろなライトでの見え方)

5) 期待が高まる・タンザニアのコバルト・スピネル

他にも、タンザニアのコバルト・スピネルは注目された宝石だと思います。昨年 SNS から話題になったことで多くの業者さんが扱われていました。きれいなコバルト・スピネルがこれまでは主にベトナムからしか供給がなく、さらに供給も少なかったことが残念でしたが、その代わりになるものかと思われます。色としてはベトナムのアウイン・カラーのものや、薄いラベンダーカラーのものではなく、サファイアのようなブルーに近い少し落ち着いた印象のコバルトブルーです。しかし、それぞれの業者さんもまとまった数をお持ちではなく、いまでもまだその希少性は高いことには変わりはないようです。

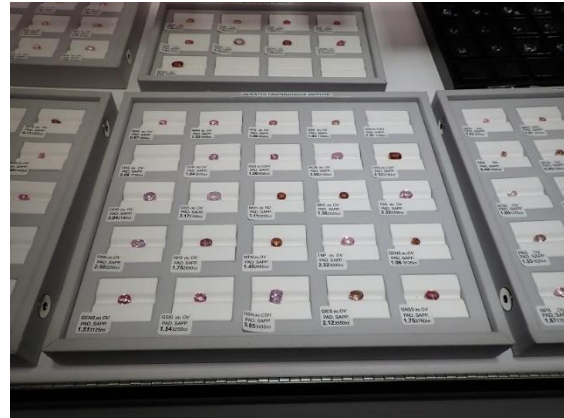


10ct を超える大きなタンザニア産のコバルト・スピネル

美しいタンザニア産のコバルト・スピネル

6) 最近のパラチアの謎

また、最近ブラウンがかったパラチア・サファイアをよく見かけるようになりましたが、その理由について面白い意見を伺いました。その業者さんからは次のように伺いました。「私個人はブラウンがかったものはあまりきれいだとは思わないが、売れる。その理由は最近鑑別機関が退色検査をするようになったせいだと思う。特に色の安定性を記載する鑑別機関があり、ブラウン系は安定性評価 = 1（最も良い）と記載される。それが評価の基準と市場に勘違いされ、他の鑑別機関もその基準に合わせていったのだと思う。Stability matters, Go Brown!」とのことでした。



ブラウン系の色味もあるパラチア・サファイア